

シリーズ

笑顔をつくる働き方改革

寒河江市立寒河江中部小学校

那 須 隆 秀 校長

少子化が進む中、令和元年度からの5年間で児童数が約100名増加した本校。「外部人材と若手教員の活躍」「児童の学力向上」を推進し、働き方改革の充実を図る取組みをうかがいました。



☆外部の力を内部の力に☆

☆児童と先生方の頑張りを発信☆

Q：たくさん子どもたち、たくさん先生方、みなさん生き活きとされています。その秘訣は？

A：常日頃から「楽しく」という言葉を大切にしている。キーワードのように先生方も意識している。

Q：プール指導を終え、笑顔が輝く担任の先生が周囲の方々にお礼を述べていました。あの方々は？

A：CS（コミュニティスクール）の活動として、学校とPTAの協力だけでは対応できないことに地域の方々から力を貸していただいている（製氷機寄贈は新聞掲載*）。プールサイドの見守りだけではなく、スポーツ技術の指導、ソーイングサポート（ミシン指導はほぼマンツーマン）等々、先生方が児童への指導に注力できることから、児童の技能も向上している。プールサイドの見守りを地域の方が担うことで先生方には空き時間が生まれ、勤務時間内の教材研究を行う余白が生まれている。時間外在校等時間の縮減は、地域等の外部人材の方々のお力添えによるゆとりも大きな要因（笑顔）。

Q：新採教員育成・支援事業で目指していることにもつながりますか？

A：「余白のあるところで人は育つ」と考えている。空き時間や余裕感があるからこそ先生方同士の横の連携が生まれ、良い授業づくりにもつながる。良い授業や児童の学力向上は、めぐりめぐって先生方のゆとりだけではなく、モチベーション向上という働き方改革につながる。

Q：若手教員が大変多い学校です。良い授業づくりや学校研究推進のコツは？

A：若手教員が「夢中部」というグループをつくって活動している。このメンバー等に他校の先進事例を紹介したところ、「自分たちも取り組みたい」と動き始め、授業づくりやICT活用について自主的に提案し、研究につながっている。この若手の頑張りを、経験豊富な先輩教員が温かく支えている。



主体的に学習に取り組む態度も育てている。校長の仕事は、児童と先生方の頑張りを内外に紹介すること（笑顔）。

Q：校長も生き活きとされています。ご自身のワークライフバランスや働き方改革は？

A：バドミントン。8月には県代表として東北選手権に出場！

(* R6.6.27 山形新聞に掲載)

裏面には、「令和5年度下期・年間在校等時間」と「チェックシート」の結果を掲載しています。

★令和5年度下期・年間の時間外在校等時間★

過去4年間で**最も少ない年間月平均時間外在校等時間**となりました！

そして、全ての校種（小・中・特・高）で**45時間を下回る**結果となりました！！

項目	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校
年間月平均 時間外在校等時間	34時間 21分 (-1時間 11分)	42時間 20分 (-3時間 09分)	21時間 45分 (-0時間 23分)	38時間 35分 (-2時間 12分)
下期月平均 時間外在校等時間	32時間 33分 (-0時間 32分)	40時間 01分 (-3時間 01分)	20時間 37分 (+0時間 08分)	36時間 04分 (-1時間 04分)
年間月平均 80時間超人数	3人 (0.1%) (-1人)	34人 (1.6%) (-25人)	0人 (0.0%) (±0人)	79人 (4.3%) (-20人)
下期月平均 80時間超人数 《第Ⅱ期プラン目標》	3人 (0.1%) (-3人)	16人 (0.7%) (-19人)	0人 (0.0%) (±0人)	71人 (3.9%) (-12人)
年間月平均 45時間超人数 《第Ⅱ期プラン目標》	764人 (21.1%) (-88人)	870人 (42.2%) (-160人)	23人 (3.0%) (+13人)	529人 (29.0%) (-54人)

() は対前年度比の値

- ◎ **学校、先生方の前向きな取組み**により、改善がより進んだ令和5年度となりました。
- ◎ 特に**中学校の改善傾向**が目立っています。**特別支援学校は80時間超0人を継続**しています。
- ◎ 第Ⅱ期（令和5～7年度）プランは「半期月平均80時間超人数」と「年間月平均45時間超人数」を0人が目標となっています（表の下2つの行となります）。

管理職の皆様、アンケートへの御協力、ありがとうございました。

★取組み状況チェックシート★

小学校と中学校では「**更なる意識改革**」として意識の向上や計画的な業務運営、「**教育課程の見直し**」として余剰時数の削減や行事の精選がみられました。また、「**1日1時間以上の空き時間確保による勤務時間内での授業準備**」が小学校で大幅に改善されました。

統合型校務支援システム活用の成果も含めて「**ICTの有効活用**」として出欠確認フォームや月（週）予定表のクラウド共有等の実践例がみられました。システム導入や整備は、**各教育委員会**が学校現場における負担解消に向けた**様々な支援をしていただいた成果**です。

中学校と高等学校においては、「**部活動改革の推進**」が進んでいます。休日活動の縮減と地域移行の推進、平日の休養日設定、部活動数の削減、複数顧問制等、様々な改善がなされています。**令和7年度までの改革推進期間**として、今後も推進が期待されます。